

事業コード	H17-建-新-3		区 分	国庫補助 県単独
事業名	地方道路交付金事業費		部局課室名	建設交通部 道路建設課
事業種別	一次改築(バイパス)		班 名	調整・企画班 (tel) 018-860-2483
路線名等	(一)野崎十字線		担当課長名	佐藤 紀一
箇所名	平鹿町林崎		担当者名	浅井学
総合計画との関連	政策コード	U	政 策 名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	04	施 策 名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県道改良率

1. 事業の概要

事業期間	H18 ~ H22 (5年)		総事業費	10.0億円	国庫補助率	5.5/10	
事業規模	延長L=1,860m、幅員(構成)W=6.0(8.5)m、(1.25-6.0-1.25)m						
事業の立案に至る背景	当該路線は、大雄村・平鹿町を經由して十字町に至る幹線道路であり、地域間交流を支援する道路であるとともに、通学路指定路線になっているなど、沿線集落を支える重要な路線となっている。しかし当該区間は、幅員狭小(W=4m)、急カーブ(R=60m)で歩道もないため事故が多発しており、平成14年には小学生の死亡事故も発生している。本路線の計画は、現在市街化形成が浅舞東部を中心に進んでいることから、整備済の(都)東町線に接続するバイパス計画とし、現道の通過交通を転換させることにより、円滑な交通と地域住民の安全確保を図るものである。						
事業目的	大型車のすれ違い困難箇所の解消(地域づくりの支援) 車道幅員4.0m 最小半径60m 通学路における安全確保 事故率44件/億台km						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度以降
	事業費		1,000,000	50,000	200,000	300,000	450,000
	経費 内訳	工事費	430,000			60,000	370,000
		用補費	440,000		180,000	200,000	60,000
		その他	130,000	50,000	20,000	40,000	20,000
	財源 内訳	国庫補助	550,000	27,500	110,000	165,000	247,500
		県 債	426,000	21,000	85,000	128,000	192,000
その他							
一般財源		24,000	1,500	5,000	7,000	10,500	
事業内容			詳細設計 用地測量	用地補償費	用地補償費 改良工	用地補償費 改良工	
調査経緯	平成15年度 概略設計						
上位計画での位置付け	あきた21総合計画における施策「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業						
関連プロジェクト等	横手平鹿8市町村合併協議会(H17.2.16設置)						
事業を取り巻く情勢の変化	幅員狭小、線形不良により事故が多発しており、平成14年には小学生の死亡事故も発生している。						
事業効率把握の手法	指 標 名	一般県道改良率					
	指 標 式	改良率(改良済延長/路線実延長)					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無		有 無	
	目標値 a	75 %		データ等の出典	道路現況調査		
	達成値 b	67 %					
	達成率 b/a	89 %		把握の時期	平成17年 4月		

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	地域間交流を支える道路であり、通学路指定路線にもなっているが、幅員狭小で歩道もないため事故が多発している。(事故率44件/億台km)	28点
緊 急 性	現道の交通事故が多発しており、平成14年には小学生の死亡事故も発生している。	15点
有 効 性	横手平鹿8市町村の市町村合併に資する道路として位置づけている。 地域づくりの支援 車道4.0m 6.0m	7点
効 率 性	事業の費用便益比は2.94であり効率性は高い。 ・総費用の現在価値8.7億円 ・総便益の現在価値25.6億円	27点
熟 度	平鹿町から、林崎地区の早期改良要望が出されている。	10点
判 定	ランク ()	87点
	判定ランク であり、事業箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきである。	
総 合 評 価	選定 改善して選定 保留	87点
	評価結果から、事業箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきである。	

3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	選定 改善して選定 保留
	本バイパスは、大雄村・平鹿町・十文字町を結び、合併市及び周辺の地域交流を支える重要路線と位置づけられる。集落内を縫うように走る現道が、幅員が狭隘で歩道もなく、通学児童をはじめ地域住民の安全確保に著しい障害を与えている状況を考慮すれば、整備の必要性・緊急性ともに高いものと認められ、事業実施は妥当と判断される。

4. 財政課長意見

意見内容	選定 改善して選定 保留
	集落中心部の狭隘な現道のバイパスを建設し既設市道部分と接続することにより、現道の通過交通を転換して集落間を結ぶ重要路線としての機能を確保するとともに、集落内の住民の安全を確保しようとするものであり事業実施は妥当と考える。

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	選定 改善して選定 保留
	事業の実施は妥当である。

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

当該箇所を国に新規要望する。 事業実施にあたっては、コスト縮減等に努める。
--

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の総合評価を可とする。

評価種別 新規箇所評価

事業コード(H17-建-新-3)

適用基準名 道路改築事業(地域間交流・連携促進)

箇所名 (平鹿町林崎)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	15	15	2次改築事業については該
	・車道幅員 < 5.5m	2箇所	13		
	・最小半径 < 100m	1箇所	10		
	・最急勾配 > 5%	0箇所	0		
	・冬期堆雪巾なし	5件該当	15		
	道路環境上の欠陥該当項目	4件該当	14		
	・現道の混雑度 1.0	3件該当	13		
	・現道の旅行速度 30km/h	2件該当	12		
	・現道の事故率 50件	1件該当	10		
・通学路指定で歩道なし	該当項目なし	0			
・重大交通事故が発生					
計			30	28	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無	あり	5	5	
	・県の主要プロジェクト	なし	0		
	・地域振興プロジェクト	位置づけあり	5		
	・ほ場整備等の他事業	位置づけなし	0		
市町村合併支援道路	あり	5			
特有の課題の有無	なし	0			
老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不					
計			15	15	
有効性	道路の位置づけ				
	緊急輸送路	第1次輸送路	8	0	
		第2次輸送路	7		
		第3次輸送路	6		
		指定なし	0		
	指定なし	0			
県内90分交通体系、全国1日交通圏等	あり	7	7		
計	なし	0			
			15	7	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)	1.5以上	20	20	
		1.0以上~1.5未満	15		
		1.0未満	0		
	計画交通量	5,000台/日以上	10		
	1,000台/日以上~5,000台日/未満	7			
	1,000台/日未満	0			
計			30	27	
熟度	地元の状況				
	地元ニーズ	文書要望あり	4	4	
		口頭要望あり	2		
		要望なし	0		
	地元の協力体制	地元の内諾	3	3	
		用地反対	0		
	あり	3			
地元への方針説明	あり	3	3		
	なし	0			
計			10	10	
合計			100	87	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		